

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	4-4-3		事業名	災害に強い道づくり事業(橋りょうの耐震化)
担当	建設局土木部業務課 西村 TEL 211-2612			
全 体 計 画				
事業内容	平成7年1月の阪神淡路大震災を契機に道路橋の耐震設計は大幅に見直され、平成8年12月には道路橋示方書の耐震設計基準が改正された。このため、災害時の緊急輸送道路として指定されている道路などにある重要橋りょうについて耐震診断点検を行い、現行の道路橋示方書に基づく耐震性能を満足しておらず、対策が必要とされた橋脚のある道路橋(75橋)について、橋脚補強や落橋防止などの耐震補強を実施することになっている。このうち、第2次新まちづくり計画期間内には19橋の耐震補強を実施し、累計で45橋を完了させる。特に第1次緊急輸送道路の橋りょうについては、耐震補強をすべて完成させる。		<年度別の事業内容>	
			<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強施工予定橋りょう数 平成19年度は6橋を実施し、この内2橋を完成予定。 平成20年度は9橋を実施し、この内7橋を完成予定。 平成21年度は5橋を実施し、この内4橋を完成予定。 平成22年度は9橋を実施し、この内7橋を完成予定。 	
事業内容・量・場所	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事を6橋実施した。この内、東川下橋、中の島橋の2橋が完成した。残り4橋は翌年度以降も施工を継続する。 ・工事費:739百万円(委託料含む) 		<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事を9橋実施した。この内、南22条大橋、手稲跨線橋など6橋が完成した。残り3橋は翌年度以降も施工を継続する。 ・工事費:836百万円(委託料含む) 	
規模・件数等	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(決算)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事を7橋実施した。この内、南郷通高架橋など5橋が完成した。残り2橋は翌年度以降も施工を継続する。 ・工事費:948百万円(委託料含む) 		<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事を9橋実施予定。この内、環状北大橋など8橋が完成する予定であったが同橋の一部橋脚補強を翌年度に継続施工を行うことなどから7橋が完成した。残る2橋のうち1橋は補強完成橋梁の追加補強であり、1橋を翌年度以降も施工を継続する。 ・工事費:1,502百万円(委託料含む) 	

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	4-4-3			事業名	災害に強い道づくり事業(橋りょうの耐震化)		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (実 績)	22年度末 (実 績)	22年度末 (目 標)	
耐震補強実施済橋りょう数(累計)	26橋 (34.7%)	28橋 (37.3%)	34橋 (45.3%)	39橋 (52.0%)	46橋 (61.3%)	45橋 (60%)	
第1次緊急輸送道路における耐震補強実施済橋りょう数(累計)	11橋 (68.8%)	12橋 (75.0%)	15橋 (93.8%)	15橋 (93.8%)	15橋 (93.8%)	16橋 (100%)	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 (該当なし)</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] 大規模地震時には緊急輸送道路の橋りょうについて設計同友会の参加企業が点検することになっており、耐震補強というハード面の取り組みに加え、ソフト面からも取り組みを行い、総合的な橋りょうの防災対策を行うこととしている。 [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
評価(成果)			課題				
<p>H20に完了を予定していた一部の橋りょうにおいて、現場条件等によりH21も継続することとなったが、当初計画よりスピードアップを図り、H22末には目標を2橋上回る見込みである。 この事業により、緊急輸送道路などにおける既設橋りょうの耐震性能を確保することで、災害時に迅速な応急活動や災害復旧を実施することが期待できる。</p>			<p>補強が必要とされた全ての対象橋りょうの耐震補強工事については、相当な年数を要する。 このため、路線重要度や個々の橋りょうの耐震性能を踏まえて、補強優先度を勘案して効果的な事業実施を行う必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>補強優先度の高い橋りょうから順次耐震補強工事を行うことを基本とし、H21に策定された橋りょう長寿命化修繕計画とも整合を図り、耐震補強工事の施工を実施することとする。 また、当初計画の補強対象橋梁75橋以外に、計画策定後に緊急輸送道路が追加指定されたことなどから、H22年度に追加橋梁12橋の耐震診断を実施し、対策が必要と判断された橋梁については、平成23年度以降の事業計画に組み入れ、残りの橋梁と合わせて引き続き取り組みを進めることとしている。</p>							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		4-4-3			事業名	災害に強い道づくり事業(橋りょうの耐震化)		
事業費の推移								
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費	671,000	642,000	888,000	639,000	2,840,000		
	財源内訳							
	国・道支出金	120,000	6,000	122,000	250,000	498,000		
	市の債	496,000	571,000	690,000	350,000	2,107,000		
予算	事業費	671,000	1,159,000	1,164,300	1,330,000	4,026,000		
	財源内訳							
	国・道支出金	120,000	66,000	232,000	230,000	589,000		
	市の債	496,000	1,001,000	861,300	885,000	3,066,400		
実績	事業費	756,942	785,200	988,538	1,521,180	4,051,860		
	財源内訳							
	国・道支出金	120,000	18,000	171,000	222,670	531,670		
	市の債	573,100	694,700	689,900	970,100	2,927,800		
	その他の他	0	0	0	10,000	10,000		
	一般財源	63,842	72,500	127,638	318,410	582,390		
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					142.7%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)								
《全体》 施工橋梁数の増加による事業費増 [19年度] [20年度] [21年度] [22年度] 施工橋梁数の増加による事業費増 ※予算の計には、19年度から20年度への繰越分(16,000千円)、20年度から21年度への繰越分(184,300千円)及び21年度から22年度への繰越分(98,000千円)を含まない。								